

令和二年度 日高看護専門学校 入学試験問題

〔地域枠・社会人〕

〔国語総合〕

(時間：六十分)

《注意事項》

- 1 試験監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください。
- 2 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があります。監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
- ① 氏名欄に、氏名・フリガナを記入してください。
- ② 番号欄に、右詰めで受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしてください。
正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。
- 3 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしてください。
国語の問題は全部で三十七問あります。解答用紙の問一から問三十七までの解答欄を使用してください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験終了後に問題冊子を回収しますので持ち帰らないでください。
- 6 問題冊子の所定の欄に受験番号を記入してください。

受 験 番 号

□ 次の問いに答えなさい。解答番号は□(1)～□(5)。

問一 次の作品の中で、作品の書かれた時代が違つものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(1)。

- ① 古事記 ② 玉勝間 ③ 日本書紀 ④ 万葉集

問二 次の書き出しで始まる作品の題名を、あとから一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(2)。

月日は百代の過客^{かかく}にして、行かふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口をこらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして旅を栖^{すまか}とす。古人も多く旅に死せるあり。

- ① 平家物語 ② 方丈記 ③ 更級日記 ④ 奥の細道

問三 次のうち、敬語の使い方が誤っているものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(3)。

- ① 私の母が、これからそちらにいらつしやいます。
② 先日、消費税に対する先生のご意見をうかがつた。
③ 会議であなたがおつしやつたことは意外でした。
④ それでは私の方から後日ご連絡いたしましたしょう。

問四 「利害得失」と同じ漢字の構成で成り立っている四字熟語を一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(4)。

- ① 花鳥風月 ② 有名無実 ③ 古今東西 ④ 完全無欠

問五 次の傍線部の語句と同じ品詞が用いられているものを、あとから一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(5)。

この間の試験で満点をとつたら、母にほめられた。

- ① 巨大な飛行機がパリに到着する。
② 友達どうれしそうに話している。
③ 私はエジソンのようにになりたい。
④ バラの花がきれいに咲いている。

□ 次の文章を読み、あとの設問に答えなさい。 解答番号は□(6)□(22)

今回の東日本大震災後の状況を見ていて、私は特に二つのことに強い印象を持ちました。第一は被災者の方々の忍耐強い冷静な行動であり、第二はあたふたと右往左往している危機管理ができていないリーダー不在の政府の醜態です。これら二つの特徴はいわば両極端の姿ですが、はじめに述べた私が再発見した日本の二つの顔とルイジ^aしています。□A□、諸外国が高く評価している日本とは、被災者の方々が示した精神を体現した日本文化であり、自らを貶めてきた日本人の成れの果てが危機管理ができない政府の情けない姿です。この双方とも、現在の日本をショウウチョウウ^bする現象と言えましょう。この二つの現象を究明することは日本の再生に繋がります。私たちが東日本大震災に学ぶべき点はここにあります。

今回の大震災で被災し避難所に避難した方々が、ハイキユウ^cになったわずかばかりのおむすびを、自分よりもっと困っている子供や老人のために分け与えた姿、持病があるため避難所の周りの方々に迷惑をかけるからと、避難せずに自宅に一人とどまっている老人の姿、子供が夜泣きをして迷惑だからといって、避難所から危険で不便な自宅に戻った家族の姿などを見て、私は人間とはどのような困難な状況にあったとしても、なおかつ他人に何かを与えることができる倫理的な存在であるということに大きなカンメイ^dを受けました。被災者の方々が示してくれたのは、助け合いの精神であり、他人を思いやる惻隱^eの情であり、利他の心です。このような被災者の方々の行動を見て、第二次大戦前にフランスの駐日大使を務めたポール・クロードルの言葉が思い出されました。

大正から昭和にかけて六年間（一九二二―二七年）に亘り駐日フランス大使を務めた詩人でもあるポール・クロードルは、世界でどうしても滅んで欲しくない一つのミンゾク^fとして日本人を挙げました。

日本が大東亜戦争のさなかにあつて敗戦の色が次第に濃くなっていた一九四三年、パリの夜会でのクロードルの言葉です。クロードルは、日本は太古の昔から文明を積み重ねてきたからこそ、明治維新後急激に欧米文化を輸入しても発展することができたと日本を称賛しています。□B□、クロードルはこう付け加えます。□日本人は貧しい。しかし高貴である□と。

伝統文化を維持しながら独自の発展を遂げた日本、経済的には貧しいが精神は高貴である日本人、そのような民族はこの地球上で存在する価値が最も高いと、クロードルはまわりのフランス人に語ったのです。

日本人が高貴な国民であるということは、他人への思いやりの心を持った品位ある国民性、自尊心と矜持^{きやうぢ}を持った品格ある国民性、要するに気高い精神を持った国民という意味でしょう。クロードルが言う高貴な日本人とは、各界のエリートもさることながら、むしろ普通の日本人を指していたのではないかと思われれます。ごく一般の日本人が持っていた「高貴な精神」が今回の大震災の被災者の中に見出されたので、海外のメディアがこぞって日本人を称賛する記事を掲げたのでしよう。

東日本大震災の被災者の方々に見られた日本人の高貴なDNAは、果たして他の日本人にも残っているのでしょうか。

クロードルの日本駐在時代から九十年をケイカ^fした今日、もしクロードルが生きていたら現代の日本人を見てな

んとケイヨウするでしょうか。

依然として地球上から滅んで欲しくない国民だと見てくれるでしょうか。幸い、今日私たち日本人は経済的には貧しくはなくなりました。むしろ、日本人は世界で有数の経済的に豊かな国民になったといえます。しかし、現在の日本人は果たして高貴といえるでしょうか。クロードルに「日本人は豊かだ。しかし卑屈である」と言われはしないでしょうか。政治家や官僚、マスメディアや学者などのオピニオンリーダー層は言うまでもなく、経営者や会社員、学校の先生達や普通の庶民に至るまで、私たちは卑屈になってはいないでしょうか。

私がどうしても本書を書きたかった理由はここにあります。今回の大震災は先の戦争の敗戦に次ぐ国難であるとよく言われています。わが国が大東亜戦争敗北の荒廃の中から奇跡の復興を遂げることができた原動力は、何よりも日本人の高貴な精神の力なのです。

敗戦直後の日本では食糧難による国民の飢えがジョウタイ化していました。戦争で親を亡くした子供達は生活の糧を稼ぐために働かざるを得ませんでした。私は終戦直後の靴磨きの少年のエピソードを思い浮かべる度に、胸が熱くなるのを覚えます。

当時、東京などの大都会の街角では、靴磨きの少年がかがいがいしく働く姿がよく見られました。あるとき、靴磨きに来たアメリカ進駐軍の兵士が靴磨きの少年にパンを一個あげると、ぼろぼろの衣服をまとった小学生くらいのその少年は、もらったパンを食べずにポケットにしまい込んだのです。それを見て兵士はどうしてここで食べないのかと訝しがって聞いたところ、「家にお腹をすかした妹が待っているのです、もって帰ってあげるのだ」と少年は答えたというのです。彼もきつとお腹がすいていたに違いありません。しかし自分は食わずに、可哀想な妹のためにパンを持って帰ってあげるこの少年の精神こそ、ポール・クロードルが絶賛した「貧しいが高貴な」日本人の魂そのものではないでしょうか。

第二次世界大戦に敗北したドイツでも似たような話があったそうです。ニクソン大統領の著書『指導者とは』に出てくる西ドイツの少女のエピソードです。

戦後アメリカはヨーロッパ復興をシエンするマーシャル・プランを実施していましたが、その実情を調査するアメリカ議会の調査団が西ドイツに派遣された時の話です。瓦礫の中で子供達にお菓子を配っていたある議員が小さな弟を連れて少女に出会いました。そこでお菓子をあげようと思いました。チョコレートが一個だけしか残っていませんでした。それを少女にあげたところ、彼女は自分では食わずに、小さい弟の口に含ませてあげたというのです。その光景を見て、この議員はいたたまれない気持ちになって、残ったお菓子を取りにシサツ列車へ引き返したということでした。

この話を聞いて、アデナウアー首相は「ドイツは戦争には負けたが、精神は負けてはいなかった。ドイツは必ず復興できる」と語ったと述べられています。

この二つのエピソードは、人間はどんな困難な境遇にあってもまだ何かを与えることができるということを示しています。このような苦しくても他人を思いやる精神が、敗戦の荒廃からの復興という困難な事業を成し遂げる原動力となったといえましょう。

問一 傍線部 a～j と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- a ルイジ [6] ① 良い成績をとってジマンする。 ② 2軒のソウジした構造の建物。
③ 三歳のヨウジを連れた母親。 ④ 山登りにジシヤクは必要だ。
- b ショウチョウ [7] ① インシヨウ深い風景。 ② ショウサイな報告書。
③ ショウメンから向き合う。 ④ 少年ガツシヨウ団に入る。
- c ハイキュウ [8] ① キュウカをとって結婚式に出る。 ② キュウユウが田舎から上京した。
③ 今日のキュウシヨクはカレーだ。 ④ 真理をタンキュウする。
- d カンメイ [9] ① 日本刀づくりのメイジン。 ② 的に矢がメイチュウする。
③ このようなメイガラ米は高い。 ④ メイカイな結論をくだす。
- e ミンゾク [10] ① 委員会にシヨクする。 ② ケイゾクして練習する。
③ その話は昔からのゾクセツだ。 ④ 平安時代の上級キゾク。
- f ケイカ [11] ① カガク者になった弟。 ② カコの行動を反省する。
③ 大会で一定のケツカを出す。 ④ 彼はいつもカメンをかぶっている。
- g ケイヨウ [12] ① ヨウシのうつくしい女性。 ② ジュウヨウな会議。
③ ヨウフウの建物が多い町。 ④ キョウヨウを身につける。
- h ジョウタイ [13] ① ジョウシキのない人。 ② 水をジョウカする。
③ 優勝しシヨウジョウをもらう。 ④ 難しいジヨウケンを出す。
- i シエン [14] ① 大統領をジジする国民。 ② 怪しい人物をカンシするカメラ。
③ 空手のシハンの下で稽古する。 ④ 国立大学をシボウする。
- j シサツ [15] ① 原稿をインサツする。 ② 家のヒョウサツを新しくした。
③ 映画のサツエイをする。 ④ カブト虫のカンサツ記録をつける。

問二 空欄 A・B にあてはまる接続語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号

は [16]・[17]。

- A [16] ① なぜなら ② ただし ③ しかし ④ すなわち
- B [17] ① ところで ② だから ③ そして ④ たとえば

問三 二重傍線部「生活の糧・皿」「かいがいしく」の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で

答えなさい。解答番号は [18]・[19]。

- [18] ① 仕事に欠かせない道具類 ② 暮らしていくために大切な衣服
- ③ 生きるために必要な食料 ④ 人間らしい生活の基盤である家

三 19

- ① けなげで懸命に ② いやいやながらも
③ わざとあかるく ④ さびしそうな様子で

問四

傍線部1「日本人は貧しい。しかし高貴である」とあるが、これは具体的にはどのような意味か。最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は20。

- ① 日本人は経済的には恵まれてはいないが、太古の昔から少しずつ文明を積み重ねて、その下地を基にして、明治維新後急激に欧米文化を輸入して発展することができたということ。
② 日本人は経済的には恵まれてはいないが、他人への思いやりの心を持った品位ある国民性と、自尊心と矜持を持った品格ある国民性という気高い精神を備えた国民だということ。
③ 日本人は経済的には恵まれてはいないが、これからの日本を担う政治家や官僚、マスメディアや学者などのオピニオンリーダーを数多く生み出した偉大な国民だったということ。
④ 日本人は経済的には恵まれてはいないが、大地震などのどんな苦難に国会おうと、それにくじけずに自分たちの暮らしや家族を守っていく強い精神力を持った国民だということ。

問五

傍線部2「私がどうしても本書を書きたかった理由」とあるが、その理由として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は21。

- ① 今回の東日本大震災で被災地の人たちが見せた行動と、あたふたと右往左往している政府の醜態を比べ、国難からの復興には被災地の人たちや惻隱の情を示した国民の高貴な精神が原動力になると信じているから。
② クローデルが日本の国民を貧しいが高貴だと言った時と比べ、現代の日本人は今の経済の豊かさに満足し高貴な精神を失っていることに落胆し、このままでは日本は破滅の道に向かうのではないかと危惧したから。
③ 被災者の方々が示した高貴な精神を体現した姿と、危機管理ができない政府の情けない姿の二つが現在の日本を象徴する現象であることに気づき、読者に今後の自分の人生をどう生きるのか考えてほしかったから。
④ 大震災でみせた被災した人々の行動、戦後の靴磨きの少年やドイツの少女の見せた行動から、人間はたとえどんな状態にあっても、希望さえ失わなければ、たくましく生きて行けるということを示したかったから。

問六

この文章の表現の特徴として、最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は22。

- ① 人間とは矛盾した精神の持ち主だということを、漢語やカタカナを多用することで重々しく描いている。
② 人間にとって必要なことは何かということを、わざと、抽象的な書き方することで効果的に示している。
③ 人間はどんな困難な境遇でも何かを与えることができる存在だということを、平易な文章で書いている。
④ 人間性が問われる現代における問題点について、比喩や具体例で強調しながらわかりやすく伝えている。

三 次の文章を読み、あとの設問に答えなさい。解答番号は(23)〜(37)

父に張りどばされた記憶がない。三人兄妹の中でとりわけいたずらだった私がぶたれなかったのだから、兄と妹もぶたれなかったはずである。子供を一度もぶたない明治生まれの父親、というのはむろん珍しいに違いない。

そんな父が私の記憶の中で、「厳しい父」と「優しい父」の半々となっているのは不思議である。父が自分の価値観をキゼン^aと教えこんだから、「厳しい父」があるのだろう。

父の価値観の中樞¹にあったのは、武士道精神ではなかったかと思う。諏訪高島藩の武士、といっても最下級の足軽、であった藤原家は、江戸時代、戦争のない時は、**A**ほとんど常に、高島城から一里ほど離れた山里で百姓をしていた。戦ったのは幕末の一八六四年、武田耕雲斎ひきいる水戸天狗党が尊皇攘夷^{じやうい}を掲げ中山道を西上した折、下諏訪の和田峠で高島藩を迎えうった時のみである。この戦鬪で、父の曾祖父が天狗党の有力武将^{なにかし}の何某を弓で射つたのだが、何某が功を横取りした、ときも口惜^{くや}しそうに父が語るのを幾度も耳にした。

明治以降も大概百姓をしていたから、実質的に藤原家は百姓なのだが、勇敢に戦った武士でもあること、**B**その気概を子供に伝えたかったのだろう。同じ^bシユシで、父の実家にある三畳の「切腹の間」についてもよく話してくれた。武士の名譽に反する行為をした時に切腹するためのものだが、一度も用いらなかったらしい。

九人兄妹の次男だった父は、幼い頃なぜか父の祖父に目をかけられ、松本市の助役をしていた時は松本で、上諏訪で町長をしていた時は上諏訪で、というぐあいに祖父母の下で育てられた。父には百姓をしていた父母よりも、幕末生まれのこの祖父の影響が大きい。

父の価値観のヒットウ^cは「卑怯^{ひきょう}を憎む」だった。母が常に私の喧嘩を制止したのに比べ、父は喧嘩を教材として卑怯を教えた。

私が妹をぶんなぐると、母は頭^こなしに私を叱りつけたが、父はしばらくしてから、「男が女をなぐるのは理由^{いかん}の如何を問わず卑怯だ」とか「大きい者が小さい者をなぐるのは卑怯だ」などと論じた。兄と庭先で喧嘩となり、カッとなった私がそばの棒切れをつかんだ時は、「喧嘩で武器を手にするのは文句なしの卑怯だ」と静かに言った。卑怯とは、生きるに値しない、というほどの重さがあった。学校でのいじめを報告すると、「大勢で一人をやつつけるのはこの上ない卑怯だ」とか「弱い者がいじめられていたら身を挺^{てい}してでも助けろ。見て見ぬふりをするのは卑怯だ」と言った。

小学校五年生の時、市会議員の息子でガキ大将のKが、ささいなことでも貧しい家庭のひ弱なTを殴った。直ちに私がKにおどろかかって引きずり倒した、と報告した時など、父は相好を崩して喜び、「よし、**X**」と私の頭を何度もなでてくれた。

このような事件が起きるたびに、私は父に徹に入り細^{うが}を穿^うって報告した。父は、私が啖呵^{たんか}を切る場面では唇をきつと固く閉じ、相手に飛びかかるころでは自分が飛びかかるように目をむいた。相手がコウサン^dし謝る段になると、さもうれしそうに笑い、「そっか、よくやった」と、ほめてくれた。

こんな時、母は横から「何を正義の味方づらしているのよ、バカね。暴力を用いたりして相手に怪我でもさせたらどうするのよ。果物を持って謝りに行くのはもうごめんですからね」などと言った。そして「お父さんもお父さんで

すよ。そんなことをそそのかして、正彦が暴力少年としてマークされたらどんな内申を書かれるかわかったものじゃないわ」と付け加えた。私は国立大学の附属中学を受験することになっていた。

ア. 父は害虫を噛みつぶしたような表情で黙るのが常だった。ほんの時折、父が反撃し、母と口論になった。「どんな損をしてでも」**Y**を貫く、というのは立派な行為だよ」「そんなこと言ってるからいつまでたっても課長にもなれないじゃないの」「お前のような山奥のアンネさ（姉ちゃん）には分らないことだ」。

イ. 父の郷里は城下町である上諏訪から一里、母の方は隣町から三里である。そのため後者は諏訪地方で低く見られていた。田舎が「ど田舎」を嗤っていたのである。これが出ると必ず母が激昂した。手許にある箸やら新聞雑誌類を父に投げつける、という所まで行かねばおさまらなかった。

父は卑怯の他に、勇氣と忍耐も教えた。父の祖父は、六歳の父に、一里もある夜道を町まで灯油を買いに行かせたという。提灯一つで歩く山道は、キツネが出たりしてとても怖かったらしい。当夜の分くらいはあるのに祖父は武士教育としてわざわざ行かせたらしい。

ウ. 私もよく使い走りを夜にさせられた。深夜に外で物音がしたりすると、「見てこい」ともよく言われた。夜でなくとも手伝いをさせられた。風呂のために井戸水を屋根上のドラムかんに汲み上げるのは小学生の私にとって重労働だった。太陽光で水を温めるのである。水道料金と石炭代を節約するためであった。どんなに疲れていてもさせられた。

反抗期に入った私が文句を言っても、「命令は命令だ¹」と取り合わなかった。珍味美味のものが手に入ると、父がまず口にした。「不公平」と子供たちが口をとがらせると、母が「子供なんて物の数に入りません」と必ず父をヨウゴ²した。

エ. 母が様々な日常の出来事に応じ善悪を示したのに対し、父はそれらを統合する価値観を教えた。それは上からの押しつけであった。私はいま押しつけられてよかったと思っている。押しつけられたものを自らの価値観としてとりこむにせよ、反発して新しいものを探すにせよ、あらかじめ何か価値観を与えられない限り、子供は動きようがないからである。

曾祖父から父に受け継がれたものを、私は同じ方法で我が子に伝えようとしている。押しつけに対してしばしば抵抗されるが、私も父のように意に介さない。父親とは、死んでから感謝されるべきもの、と思っている

（藤原正彦「祖国とは国語」）

問一 傍線部 a～e と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a キゼン **(23)**

- ① カイゼンの余地がある。 ② バクゼンとした答え。

③ ゼンシンを続ける軍隊。 ④ 日本ゼンドのインフラ整備。

b シュシ **(24)**

① シュコウを凝らしたもてなし。 ② リンゴのシュシを観察する。

③ 指紋をサイシュする。 ④ 陣地をシシュする武田軍。

c ヒットウ [25]

① 山頂にトウタツした。

② 人間としてトウゼンの行動。

③ 新たなセイトウを立ち上げる。

④ 人気商品をテントウに並べる。

d コウサン [26]

① 新しいコウシヤが完成した。

② 軽率な行動をコウカイする。

③ 信長にコウフクする今川軍。

④ ノウコウなスーブ。

e ヨウゴ [27]

① ゴシン術を習う。

② ゴカイを受ける発言。

③ ショウゴを知らせる鐘の音。

④ ゴカクの戦いをする。

問二 空欄A・Bにあてはまる接続語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号

は [28]・[29]。

A [28]

① しかし

② したがって

③ そして

④ ただし

B [29]

① および

② ところが

③ すると

④ つまり

問三 空欄Xにあてはまる語として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は [30]。

X [30]

① 先生も喜んでいたらう

② 強い相手によく勝った

③ しかしやり方がひどい

④ 弱い者を救ったんだな

問四 二重傍線部Ⅰ「中枢」・Ⅱ「激昂」の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。

解答番号は [31]・[32]。

Ⅰ [31]

① 自分の信念にはずれたこと。

② 家庭の中心としての責任。

③ 最も大事な働きをなす部分。

④ 自分の心の中にある理想。

Ⅱ [32]

① 冷静さを失うこと。 ② 怒ってひどく興奮すること。

③ 情けなく思うこと。 ④ あきれて口がきけないこと。

問五 この文章からは、次の一文が抜けている。文中の[ア]～[エ]のどこに戻すのが適切か。あとから一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は [33]。

我が家では親子は、昨今流行の友達関係でなく、完全な上下関係だった

- ① [ア] ② [イ] ③ [ウ] ④ [エ]

問六 傍線部1「命令は命令だ」とあるが、その理由として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(34)。

① これからの日本人に最も必要なものは昔から受け継がれている武士道精神であり、仮に押し付けだと反発されても、息子に卑怯を憎む精神と、勇気や忍耐を身につけさせれば、たとえどんな苦難にあつたとしても、必ずその困難を克服し、人生を真つ当に生きていけるだろうと考えたから。

② 一八六四年、武田耕雲斎ひきいる水戸天狗党が尊皇攘夷を掲げ中山道を西上した折、下諏訪の和田峠で高島藩が迎えうった戦鬪で、父の曾祖父が天狗党の有力武将の何某を弓で射ったが、何某が功を横取りしたくやしさを話し、卑怯なことをしてはならないということを教えたかったから。

③ 妻の、息子に対する心配は母親として当然な思いであり、今までのように自分の信念にしたがって息子を育てていっても、国立大学の附属中学の受験の合格はおぼつかないし、息子の将来を考えると、たとえ押し付けだと思われても、妻の味方をする方が理にかなっていると思っただけから。

④ 使い走りを夜にさせたり、昼も手伝いをさせたり、水道料金と石炭代を節約するために、井戸水を屋根上のドラムかんに汲み上げるといふ小学生には重労働をさせることで、家族というものは自分のことだけではなく、互いに支えあつてこそ成り立つのだということを教えたかったから。

問七 空欄Yにあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(35)。

- ① 信念 ② 正義
③ 信仰 ④ 忍耐

問八 傍線部2「同じ方法」について、筆者の考えと一致しないものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(36)。

- ① 武士道精神を土台として、子どもたちに生きていくために必要な卑怯を憎む心を教えるということ。
② 家庭のあり方や、精神の持ち方を強制することで、人としての価値観を身につけさせるといふこと。
③ 不公平な考え方は、親子であつても間違っていると反論する考え方を持つことを伝えるということ。
④ 事にあたる時には武士の名誉に反する行為を決してはならないということを教えるということ。

問九 本文に書かれている内容として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(37)。

① 父は明治生まれだったが、子供を一度もぶたなかった。しかし、そこには現代の父親や母親のような子どもに対するおもねりというものはなかった。親や教師には「優しさ」の他に「厳しさ」がなければならぬ。私は今後の家庭や学校においては厳格な教育をしていくことが必要だと考える。

② 父は卑怯の他に、勇気と忍耐も教えてくれた。それは父が六歳の時、祖父に一里もある夜道を町まで灯油を買いに行かされた原体験が基になっている。祖父は武士教育として行かせたらしいが、これは勇気と忍耐

を身につけさせるには有効な方法であり、私もわが子の教育に取り入れていきたい。

③ 母が日常の出来事に応じ善悪を示し、父はそれらを統合する価値観を伝えてくれた。あらかじめ何か価値観を与えられない限り、子供は動きようがないからだ。それは上からの押しつけであったが、それでよかったと思うし、わが子にも、曾祖父から父に受け継がれたものを伝えようと思う。

④ 現代人には卑怯を憎む心も、勇気や忍耐もなくなった。これは日本的な精神が失われたことを意味しているが、それを防ぐためにも子どもたちに読み・書き・そろばんを通じて、思索の基本となる日本語や日本の文化・歴史を深く理解させることで、武士道精神を取り戻さなければならぬ。